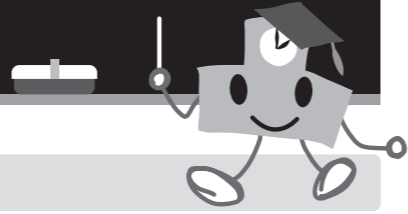


小学校の事例 厚別区 厚別北小学校

環境委員会を中心に牛乳パックを回収。ポスターを作り活動をPR。

毎年独自のPR方法を考え、牛乳パックリサイクルを呼びかける。これからはリサイクルした先のことも目に見える工夫でより具体的な意識づけを。



内容 手順を決めて牛乳パックを回収

本校では5～6年生の各学級2～3名で構成される環境委員会が中心になって、全校で給食の牛乳パックリサイクルに取り組んでいる。

給食で飲み終わった牛乳パックを各自が洗い、開いて乾かしたものを学級ごとにまとめて回収。各学級の代表が1階の棚にもって行き、自分の学級のところへ入れ、100枚たまったらビニールテープでまとめる。これを当番の委員が、数が合っているか、きちんと縛られているかを確認し、カートに入れる。その後、業者へ渡される、というのが本校の牛乳パックリサイクルの一連の流れである。

環境委員会では、牛乳パックのまとめ方の手順を正しく行うためのPRも行っている。PR方法はその年の委員で考えているので毎年異なり、過去には劇を上演したこともあった。

今年は、ポスター掲示と給食時のビデオ放送を行っている。ポスターは、パックの開き方やまとめ方の手順が細かく書かれ、写真も付いているもので、4月に各学級へ配られた。また、4月には、6年生が1年生に開き方の指導を行った。



「牛乳パックの開き方・まとめ方」ポスター

効果 リサイクルの結果を具体的に伝えていく

いいことをしているという意識はあるが、結果が見えにくいこともあり、リサイクルのよさを実感させるのは難しい。そこで、パックを再利用して作られたトイレトペーパーを見せるなどして、「この取組が役に立っている」と児童にもわかるようにしていきたい。

また、リサイクルの取組によって、特別活動が活性化される効果が見られている。環境委員会の呼びかけにより、パックを開くのが苦手な低学年の児童が、きれいにまとめられるようになった。



開いた牛乳パック

本校では清掃活動などで普段からたて割りの活動が多く、異学年同士の交流があるので、6年生が1年生に指導したときもスムーズに行うことができた。

ポスター掲示やビデオ放送で、1～4年生が各委員会の活動を見ることができ、「5年生になって委員会に入ったら、こんな活動をするんだ」と、早くから関心をもっている。



各クラス用の牛乳パック収納棚

今後 その他の資源物回収への拡大を検討

年1回、12月に開かれているイベントでは、各学級とも、段ボールを大量に使ったお化け屋敷やゲームコーナーが出展されるため、児童会ではイベントが終わったあとの段ボールのリサイクルを呼びかけている。牛乳パックのリサイクル意識を生かした取組を継続したい。

今後は、リングプルやペットボトルキャップの収集にも取り組んでいきたいと考えている。リングプルを活用するなど、行事と結びつけて収集できないか、現在、他の学校を参考にしながら方法を模索している。6年生が総合的な学習の時間に地域についての学習しており、地域を見ることで、今後、一緒にできるような取組が児童から発案されることも期待している。



牛乳パックを100枚ごとに入れるカート

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

小学校と中学校の環境学習の違いがよくわからないと思うことがあります。小学校ではここまで、中学校ではここまでと学習する分野がはっきりわかれば、小学校から中学校への学習の流れができて、環境をより深く学習できるのではないかと考えています。